

教員養成課程の大学生における 社会性・規範意識に関する調査研究

石原努 今里順一 川越明日香 御所美穂 瑞慶覧聡子 山田公美
(長崎大学大学院教育学研究科) 村田義幸 (長崎大学教育学部)

問 題

全ての国民の規範意識の醸成は、教育上の重要な課題の一つである。この規範意識を高めていくためには、家庭教育・学校教育・社会教育の連携協力が不可欠である。この中で、学校教育における取組の中心となるのは、教師であろう。そこで、本研究では、将来、教師の道を目指している教育学部の教員養成課程の学生を対象を絞り、どのような規範意識をもっているのかを検討していくこととした。

次に、規範意識についてみる。規範意識に関する調査は、数多くされている。長崎県においては、長崎県教育センターが、平成13年に「長崎県の児童生徒の社会性・規範意識に関する実態、及び、保護者・教員などの意識を調査し、学校の教育活動や地域、家庭の教育力の向上・改善に資する。」ことを目的としたアンケート調査を行い、平成14年に調査結果をまとめている。

この調査の対象者は、小学生・中学生・高校生・教職員・保護者であり、大学生は対象となっていない。調査が行われなかった理由の一つとして、大学生には、長崎県出身でないものがあることや、一人住まいの学生がいることなどが考えられる。

そこで、本研究では、先にも述べたように、長崎の大学の教員養成課程の大学生を対象として調査を行っていくこととした。

目 的

本研究は、以下のような目的で、研究を行っていくことにした。

第1の目的として、大学生を対象とした社会性・規範意識に関するアンケートを行い実態を明らかにする。第2の目的として、大学生と、小中高校生、教員、保護者の社会性・規範意識の相違について検討する。第3の目的として、大学生の学年間において、社会性・規範意識に、どのような相違があるのかを検討する。

方 法

1 調査対象者

N大学教育学部学校教育教員養成課程第1学年～第4学年（591名）を対象として行った。回答者の属性をTable 1に示した。

Table 1 回答者の属性（人）

学 年	男	女	合計（自宅生	自宅以外）
第1学年	34	101	135	(60 75)
第2学年	24	89	113	(54 59)
第3学年	68	111	179	(68 111)
第4学年	70	94	164	(69 95)

また、今回の研究において、比較資料として用いる長崎県教育センターのアンケートでは、以下のような対象者で調査を実施している。その回答者の属性をTable 2に示した。

Table 2 教育センターの調査における回答者の属性（人）

種 別	男	女	合計
小学5年生	549	527	1,076
中学2年生	536	539	1,075
高校2年生	533	578	1,111
教 員	764	484	1,248
保 護 者	402	2,749	3,151

2 調査時期と手続き

調査は、平成20年1月下旬、大学の講義時間内に集団で実施した。時間が足りない場合には、記入が終了した後、回収ボックスに投函してもらった。

調査は、個別記入法で行い、実施時間は、約20分であった。

3 調査内容

長崎県教育センターが、平成13年に実施した社会性・規範意識調査の際に用いた高校生版と教員版のアンケートをもとに、42項目からなる質問紙を作成した。質問紙の概略は、以下の通りである（詳細は、終末に添付）。

(1) 家庭生活：10項目

- 朝からの「おはよう」のあいさつの有無
- 就寝時間
- 朝食の有無
- 夕食をだれと一緒に食べているのか
- 講義終了後の主な時間の使い方
- 家の人が、どのような内容のことをよく注意するのか
- 家の人への要望
- 保護者を尊敬する点
- 現在の小中学生の保護者のしつけ

- しつけについて危惧する点

(2) 大学生活： 4項目

- 大学生活は楽しいか
- 大学生活の満足している点
- 大学生活の不満足な点
- よい先生とはどのような先生か

(3) 人間関係： 4項目

- 友達の数
- 友達は、どのような人か
- 友達がいらない理由
- 心から話せる人とは、どのような人か

(4) 社会生活： 18項目

- メールのやりとりについて 1
- メールのやりとりについて 2
- 現在住んでいる場所の魅力
- 今後、どのような場所に住みたいか
- これまでのボランティア参加の形態
- ボランティアに興味があるかどうか
- ボランティアをする目的
- 自分の生き方
- 自分で充実感を味わうことのできる場面
- 何かあったとき、まわりの大人は注意しているか
- 地域の人々とどのような接し方をしているのか
- 地域社会の問題点
- 青少年の考え方や行動で優れている面
- 青少年の考え方や行動で憂慮すべき点
- 21世紀に身に付けておかなければならない資質
- 青少年の望ましい成長・発達を支えていくための取り組み
- 情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にプラスとなること
- 情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にマイナスとなること

(5) 規範意識： 3項目

- 高校生までの子どもたちが、以下のような行動をとったときの感じ方
 - ・ 髪を染めている
 - ・ ピアスをあけている

- ・ ズボンやスカートを決められたとおりにしていない
- ・ 校庭や廊下にゴミを捨てる
- ・ 学校でガムやお菓子を食べる
- ・ 学校をさぼる
- ・ 掃除をさぼる

○ 講義中の態度についての感じ方

- ・ ノートなどを出さない
- ・ 注意されてもおしゃべりをやめない
- ・ 友だちの発言を笑ったりなじったりする
- ・ 先生の注意に反抗する
- ・ 先生の指示や質問を無視する
- ・ 教室内を立ち歩く
- ・ 無断でトイレに行く
- ・ まんがや小説などを読む
- ・ CDなどの音楽を聴く

○ 中学生や高校生の行動に対する感じ方

- ・ 自分の部屋でたばこをすう
- ・ 自分の家で酒を飲む
- ・ アダルトビデオを見る
- ・ 車やバイクの無免許運転をする
- ・ 保護者に無断で外泊する
- ・ 人に暴力をふるう
- ・ 友だちにお金や品物を強要する
- ・ 万引きをする
- ・ 夜遅く外を出歩く
- ・ ナイフを持ち歩く
- ・ 援助交際をする
- ・ 自転車の二人乗りをする
- ・ 他人の自転車を無断で使用する
- ・ 他人の傘を無断で使う
- ・ ジュースの空き缶等を道路に放置する
- ・ 電車の通路や道路にべた座りする
- ・ 電車やバスでお年寄りに席をゆずらない
- ・ 薬物（シンナー等）を使用する

(6) 属性： 3項目

- 性別
- 学年
- 通学の仕方（自宅，自宅以外）

結 果

1 アンケート結果

大学生全体のアンケートを集計した結果は、以下のとおりである。数値は、割合（％）、及び、順位で示している。

(1) 家庭生活

質 問 項 目	回 答	比率
朝からの「おはよう」のあいさつの有無	ほとんど毎日する	78%
	時々する	16%
	あまりしない	5%
	まったくしない	1%
就寝時間	午後 9 時前	1%
	午後10時頃	1%
	午後11時頃	3%
	午前 0 時頃	20%
	午前1時頃	25%
	午前1時以降	31%
	きまっていない	18%
朝食の有無	毎日食べる	40%
	だいたい毎日食べる	33%
	ほとんど食べない	22%
	食べない	5%
夕食をだれと一緒に食べているのか	親・兄弟・恋人	40%
	祖父母・親戚	1%
	自分一人	48%
	友人	8%
	その他	3%
講義終了後、主にどのようなことに時間を使っているか	学習	19%
	アルバイト	27%
	テレビや漫画	10%
	音楽	4%
	友達と一緒に	12%
	ゲーム	2%
	サークル	16%
	家の手伝いなど	1%
	ただぼんやりしている	9%
	読書	1%
家の人が、どのような内容のことをよく注意するのか	勉強について	24%
	言葉遣いについて	28%

(よく注意する＋ 時々注意する割合)		服装・髪型・装飾品	25%
		礼儀作法について	47%
		片付け・整理整頓	70%
		家の手伝い	48%
		帰宅時間	31%
		友達とのつきあい方	10%
		異性との交際	16%
		人に迷惑をかけないようにすること	54%
		ものを大切にすること	50%
		交通安全など自分の身を守ること	59%
家の人へ、もっとこうしてほしいという要望 (上位3項目)	1	進路や職業について相談相手になってほしい	
	2	細かなところまで干渉しないでほしい	
	3	よいことをした時は、ほめたり認めたりしてほしい	
保護者を尊敬する点 (上位3項目)	1	家族のために一生けんめい働いているところ	
	2	子どものことを大切にしてくれるところ	
	3	家庭を明るい雰囲気してくれるところ	
現在の小中学生の保護者のしつけ		あまりされていない	38%
		どちらかというときされていない	51%
		どちらともいえない	4%
		どちらかというときされている	4%
		されている	2%
しつけについて危惧する点 (上位3項目)	1	親自身がマナーやエチケットを十分身につけていないから	
	2	学校まかせの親が増えているから	
	3	祖父母が家庭でのしつけに携わらなくなっているから	

(2) 大学生活

質 問 項 目		回 答	比率
大学生活は楽しいか		楽しい	47%
		だいたい楽しい	44%
		あまり楽しくない	6%
		楽しくない	2%
大学生活に満足な点 (上位3項目)	1	友達がいる	
	2	部活動などが楽しい	
	3	ゼミの雰囲気がよい	
大学生活の不満足な点 (上位3項目)	1	施設や設備が十分でない	
	2	授業の内容がよくわからない	
	3	先生と気が合わない	
よい先生とはどのような先生	1	熱心に指導してくれる先生	

なのか (上位3項目)	2	授業がわかりやすい先生
	3	気持ちを分かってくれる先生

(3) 人間関係

質 問 項 目		回 答	比率
友達の数		たくさんいる	62%
		少しいる	38%
		いない	1%
友達はどうのような人か (上位3項目)	1	気が合う	
	2	困ったときに相談にのってくれる	
	3	自分にないところがある	
友達がいない理由		つきあいたい人がまわりにいない：1人	
		友達はほしいができない：1人	
心から話せる人とは、どのよ うな人か (上位3項目)	1	友達	
	2	親	
	3	兄弟姉妹	

(4) 社会生活

質 問 項 目		回 答	比率
メールのやりとり	メールをしたことがある：590人		
	メールをしたことがない：1人		
見知らぬ人とのメールのやりとりがあるかどうか	メールのやりとりがある	59%	
	メールのやりとりがない	41%	
現在住んでいる場所の魅力 （上位3項目）	1	生活が便利である	
	2	安全に暮らせる	
	3	のんびりしている	
今後、どのような場所に住みたいか （上位3項目）	1	出身地	
	2	今住んでいる市町村	
	3	県外	
ボランティア参加の有無（参加したことがある割合）	老人ホームや病院など施設への訪問	85%	
	障害がある人への支援や保育などの活動	85%	
	道路、公園、海岸などの清掃	85%	
	古紙やアルミ缶などのリサイクル運動	68%	
	地域の伝統行事	82%	
	キャンプなどの自然生活体験	95%	
ボランティアに興味があるか	ある	40%	
	少しある	44%	
	ほとんどない	13%	

		考えたことがない	3%
ボランティアをする目的について (上位3項目)	1	いろいろな人と出会いたいから	
	2	困っている人の手助けをしたいから	
	3	新しい技術や知識を身に付けたいから	
自分の生き方について大切に と思うこと (上位3項目)	1	家庭や家族を大事にして生きたい	
	2	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくりたい	
	3	その日その日を楽しんで生きたい	
自分で充実感を味わうことのできる場面 (上位3項目)	1	友だちや仲間といるとき	
	2	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき	
	3	家族といるとき	
何かあったとき、まわりの大人は注意しているか	よく注意する		31%
	時々注意する		58%
	見ても注意しない		11%
地域の人々とどのような接し方 をしているのか (上位3項目)	1	道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする	
	2	子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている	
	3	地域の人と一緒に活動をしている	
地域社会の問題点について (上位3項目)	1	よその家の子どもをしからなくなった	
	2	隣近所に無関心な人が増えた	
	3	地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた	
青少年の考え方や行動で優れている面 (上位3項目)	1	情報機器などへの対応が早い	
	2	現実的である	
	3	自由にのびのびと振るまえる	
青少年の考え方や行動で憂慮すべき点 (上位3項目)	1	自己中心的な考えや行動が多い	
	2	忍耐力がない、我慢ができない	
	3	ぜいたくを好み、ものを大切にしない	
21世紀に身に付けておかなければ ならない資質 (上位3項目)	1	責任感	
	2	思いやり	
	3	忍耐力	
青少年の望ましい成長・発達を支 えていくための取り組み (上位3項目)	1	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発	
	2	地域での青少年の居場所づくり	
	3	青少年の悩みについての相談窓口の充実	
情報機器・情報サービスの普及・ 使用により青少年にプラスとなる こと (上位3項目)	1	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる	
	2	国を越えたコミュニケーションにより国際理解が深まる	
	3	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる	
情報機器・情報サービスの普及・ 使用により青少年にマイナスとな ること (上位3項目)	1	人とふれあう機会の減少、コミュニケーションが下手になる	
	2	有害な情報の入手、非行が増える	
	3	悪用されたり誤って使われたりして被害を受ける	

(5) 規範意識

質 問 項 目	回 答	比率
高校生までの子どもたちが、以下のような行動をとったときの感じ方（「とても嫌な感じがする」＋「かなり嫌な感じがする」の割合）	髪を染めている	59%
	ピアスをあけている	69%
	ズボンやスカートの校則違反	38%
	校庭や廊下にゴミを捨てる	98%
	学校でガムやお菓子を食べる	58%
	学校をさぼる	68%
	掃除をさぼる	77%
講義中の態度についての感じ方（「とても悪い」＋「かなり悪い」の割合）	ノートなどを出さない	59%
	注意されてもおしゃべりをやめない	98%
	友だちの発言を笑ったりなじったりする	91%
	先生の注意に反抗する	78%
	先生の指示や質問を無視する	93%
	教室内を立ち歩く	91%
	無断でトイレに行く	39%
	まんがや小説などを読む	60%
	C Dなどの音楽を聴く	76%
中学生や高校生の行動に対する感じ方（とても悪い＋かなり悪いの割合）	自分の部屋でたばこをすう	82%
	自分の家で酒を飲む	61%
	アダルトビデオを見る	13%
	車やバイクの無免許運転をする	97%
	保護者に無断で外泊する	74%
	人に暴力をふるう	98%
	友だちにお金や品物を強要する	99%
	万引きをする	99%
	夜遅く外を出歩く	66%
	ナイフを持ち歩く	96%
	援助交際をする	95%
	自転車の二人乗りをする	30%
	他人の自転車を無断で使用する	95%
	他人の傘を無断で使う	87%
	ジュースの空き缶等を道路に放置する	95%
	電車の通路や道路にべた座りする	83%
	電車やバスでお年寄りに席をゆずらない	82%
	薬物（シンナー等）を使用する	98%

2 小中高校生、教員、保護者と大学生の結果の比較

長崎県教育センターが平成13年に実施した調査結果の中から、小中高校生、教員、保護者のデータをもとに、本研究で行った大学生の調査結果と比較した。

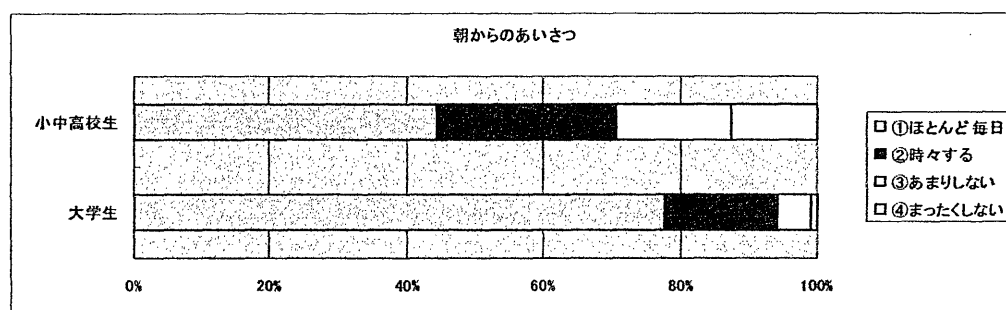
39の質問項目（属性3項目をのぞく）のうち、有意差がみられたものや項目間に関連がみられるものなどを抽出した。結果は、以下のとおりである。

(1) 家庭生活

○ 朝からの「おはよう」のあいさつの有無

朝のあいさつについては、小中高校生と大学生の差を χ^2 検定した結果、1%水準で有意差がみられた。

Fig. 1 あいさつの有無



○ 家の人への要望

家の人にしてほしいことにおいて、選択された上位3項目は、以下のとおりであった。

	中高校生	大学生
1	細かなところまで干渉しないしてほしい	進路や職業について相談相手になってほしい
2	勉強のことばかり言わないでほしい	細かなところまで干渉しないほしい
3	よいことをした時は、ほめたり認めたりしてほしい	よいことをした時は、ほめたり認めたりしてほしい

また、大学生より中高校生において割合の高かった項目は、「勉強のことばかり言わないでほしい」、「他の兄弟姉妹と比べたり、不公平な扱いをしないでほしい」であった。

逆に、中高校生より大学生の割合が高かった項目は、「自分が困っているときに相談にのってほしい」、「自分の話をよく聞き、自分のことを理解してほしい」であった。

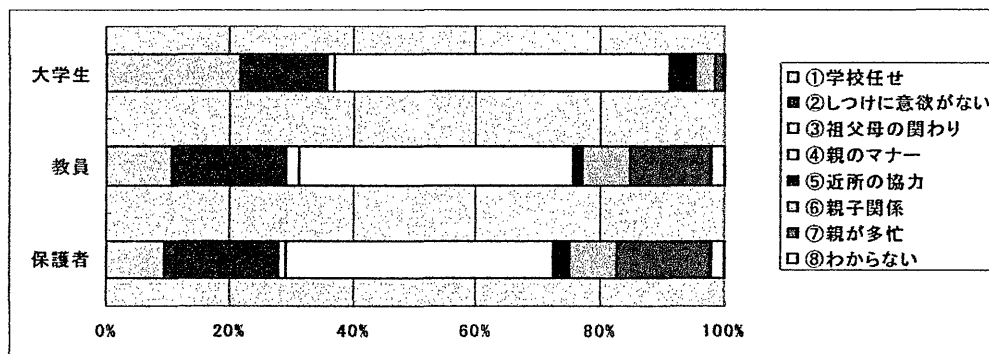
○ 現在の小中学生の保護者のしつけ

家庭のしつけがあまりされていないという意見に対しては、「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」は教員94%、大学生89%、保護者は78%であった。検定の結果、有意差はみられず、大学生の考えは、教員・保護者

と同じ傾向にあるといえる。

○ しつけについて危惧する点

保護者・教員と大学生の差について、 χ^2 検定をした結果、「親が多忙で、しつけに手がまわらないから」の項目以外は、有意差はみられなかった。大学生の考えは、教員・保護者とほぼ同じ傾向にあるといえる。



(2) 大学生生活

○ 大学生活の不満足な点

学校生活に感じる不満な点について、選択された上位3項目は以下のとおりであった。

	小中高校生	大学生
1	きまりがきびしい	施設設備が十分でない
2	嫌いな行事がある	授業内容がよく分からない
3	授業内容がよく分からない	先生と気が合わない

○ よい先生とはどのような先生か

よい先生はどのような先生かについて、選択された上位3項目は以下のとおりであった。

	小中高校生	大学生
1	明るく楽しい先生	熱心に指導してくれる先生
2	気持ちをわかってくれる先生	授業がわかりやすい先生
3	授業がわかりやすい先生	気持ちをわかってくれる先生

(3) 人間関係

○ 友だちは、どのような人か

友だちがどのような様子なのかについて、選択された上位3項目は以下のとおりであった。

	小中高校生	大学生
1	気が合う	気が合う
2	おもしろい	相談にのってくれる
3	相談にのってくれる	自分にないところがある

○ 心から話せる人とは、どのような人か

心から話せる人がどのような人なのかについて、選択された上位3項目は以下のとおりであった。

	小中高校生	大学生
1	友だち	友だち
2	親	親
3	兄弟姉妹	兄弟姉妹

(4) 社会生活

○ 現在住んでいる場所の魅力

現在住んでいる場所の魅力について、選択された上位3項目は、以下のとおりであった。

	中高校生	大学生
1	自然にめぐまれている	生活が便利である
2	のんびりしている	のんびりしている
3	安全に暮らせる	安全に暮らせる

○ これまでのボランティア参加の形態

参加経験は、小中高等学校、大学と学年が上がるにつれて増加している。また、ボランティア活動に自ら進んで参加した割合も大学生が高い。

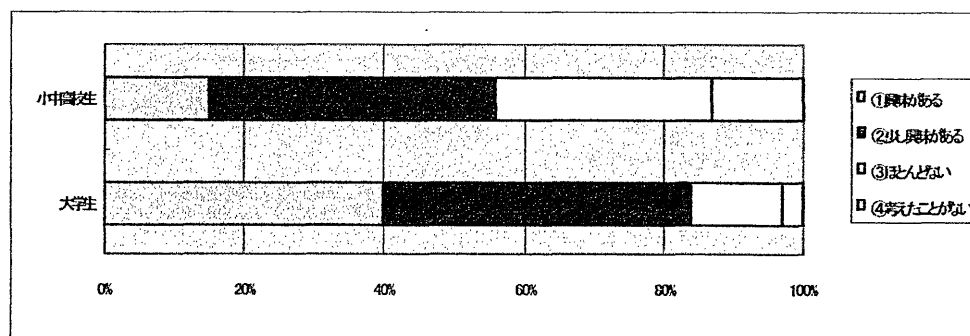
高校生と大学生の参加の仕方について、「自分から進んで参加した」＋「他の人に誘われて参加した」について、 χ^2 検定した結果、以下の2項目において、1%水準で有意差がみられた。

- ・ 地域の伝統行事
- ・ キャンプなどの自然生活体験

○ ボランティアに興味があるかどうか

ボランティアに対する興味について、大学生と小中高校生の差について、 χ^2 検定した結果、「ボランティアに興味がある＋少しある」の割合が、大学生において高く、1%水準で有意差がみられた (Fig. 2)。

Fig. 2 ボランティアに対する興味



○ 自分の生き方について

自分の生き方について、中高校生と大学生の差について、 χ^2 検定した結果、「家庭や家族を大事にして生きる」を選択した大学生の割合が高く、1%水準で有意差がみられた。逆に、「その日その日を楽しむ生きる」は、中高校生が選択した割合が高く、1%水準で有意差がみられた。

保護者・教員と大学生の差について、 χ^2 検定した結果、「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくりたい」の割合が、保護者・教員において高く、1%水準で有意差がみられた。

○ 地域の人々とどのような接し方をしているのか

地域の人との接し方について、選択された上位3項目は、以下のとおりであった。

	教員	大学生
1	道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする	道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする
2	悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている	地域の子どもたちとのかかわりはほとんどない
3	地域の子どもたちとのかかわりほとんどない	子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている

○ 青少年の考え方や行動で憂慮すべき点

青少年の考え方や行動で憂慮すべき点について、選択された上位3項目は、以下のとおりであった。

	教員・保護者	大学生
1	自己中心的な考え方や行動が多い	自己中心的な考え方や行動が多い
2	忍耐力がない、我慢ができない	社会的なルールを守らない
3	自分の感情や欲望をうまくコントロールができない	忍耐力がない、我慢ができない

(5) 規範意識

○ 高校生までの子どもたちの行動に対する感じ方

小中高校生と大学生の「とても嫌な感じがする」+「かなり嫌な感じがする」の差について、 χ^2 検定した結果、以下の3項目において、1%水準で有意差がみられた。

- ・ 髪を染めている（小中高校生67%＞大学生41%）
- ・ ピアスをあけている（小中高校生35%＜大学生69%）
- ・ ズボンやスカートを決められたとおりにしていない
（小中高校生17%＜大学生38%）

○ 講義中の態度についての感じ方

小中高校生と大学生の「とても嫌な感じがする」＋「かなり嫌な感じがする」の差について、 χ^2 検定した結果、以下の項目において、1%水準で有意差がみられた。

- ・ 無断でトイレに行く（小中高校生83%＞大学生39%）

○ 中学生や高校生の行動に対する感じ方

中高校生と大学生の「とても嫌な感じがする」＋「かなり嫌な感じがする」の差について、 χ^2 検定した結果、以下の項目において、1%水準で有意差がみられた。

- ・ アダルトビデオを見る（中高校生40%＞大学生13%）

3 大学生の学年間の結果の比較

39の質問項目（属性の3項目を除く）において、学年間で、回答に、大きな差異は認められなかった。また、差があった項目についての関連性を見出すことができなかった。

そこで、大学1・2年生と、3・4年生を比較することにした。結果は、以下のとおりである。

(1) 家庭生活

講義終了後の時間の使い方について、1・2年生と3・4年生の間に、差が認められたものは、以下の2つであった。

	1・2年生	3・4年生	χ^2
アルバイト	35%	22%	$P<.01$
学習	8%	27%	$P<.05$

(2) 大学生活

大学生活に関する4項目において、学年間に有意差はみられなかった。

(3) 人間関係

人間関係に関する4項目において、学年間に有意差はみられなかった。

(4) 社会生活

社会生活に関する18項目において、学年間に有意差はみられなかった。

(5) 規範意識

規範意識に関する3項目において、学年間に有意差はみられなかった。

考 察

調査結果を受けて、大学生の全体的傾向、社会性・規範意識について、学年間の相違について考察する。

1 全体的傾向について

今回の調査で明らかになったことの一つは、教員養成課程の大学生が、家族や親との関係をととても大切にしているということである。そのことは、以下のような回答の状況から理解できる。

- 自分の生き方についての質問において、「家庭や家族を大事にして生きる」を選ぶ学生が一番多い。
- 充実感を感じるときの3番目に、「家族といるとき」があげられている。
- 相談相手として、保護者がしめる割合が高い。
- 保護者への要望の中で、「自分が困っているとき相談にのってほしい」「自分の話をよく聞き、自分のことを理解してほしい」の2項目を選択する割合が高い。

これらのことは、大学生になり、自宅以外から通学をしたり、アルバイトなどをしたりすることで、生活のさまざまな場面において、一人ひとりが生活の主体者として意識する場面が多くなってきていることと関連していると考えられる。

また、人生の方向性を決める進路選択など、自己決定をする場面において、家族・親の意見を参考にし、解決しようとしていると考えられる。

つまり、高校生時までは、家族や親と一緒に決定していたことを、大学生になると自分で決定しなければならない状況が生まれ、ものの見方や考え方の視点が、小中高校生とは異なってきたといえる。

次に、大学生の友だち観についてみると、選択率の高い回答は、「困ったときに相談にのってくれる」「自分にはないものをもっている」が挙げられている。

このことより、大学生は、自己決定場面などにおいては、家族・親だけでなく、友だちに相談しながら、判断していこうとしているといえる。

2 社会性・規範意識について

社会性に関する質問項目の結果をみると、

- 地域の人と「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」という回答が大学生に多い。
- 「朝のあいさつ」の有無についても、小中高校生に比べて、大学生は94%と高い。
- ボランティア活動へ自らすすんで参加しようとする割合が高い。
- 現在の青少年の憂慮すべき点や家庭のしつけについての質問において、大学生と教員を比較した場合に、差がみられない。

上記のことの背景として、本研究の調査対象が教育学部の学生であるため、すべての学生が学習支援や野外体験活動、教育実習等を通して、小中学生と関わる機会が多くある。そのことで、大人としての視点をもって判断する機会を

得ことができ、社会性も高まってきたのではないかと考える。また、そのような活動を通じて、社会を形成する一員としての自覚を高めていると考えられる。

規範意識に関する質問項目の結果をみると、

- 高校生までの子どもたちの行動や態度についての質問の多くの項目において、大学生は、教員・保護者と高校生の間位置している。
- つまり、大学生は、教員・保護者の考え方に近づきつつあるといえる。

3 大学生の学年間の相違

大学生の学年間の調査結果において、有意差がみられた項目は、講義終了後の時間の使い方であった。1・2年生では「アルバイト」と3・4年生では「学習」という回答が多かったことから、3年生以降、「学習」に対する意識が高くなることが考えられる。もしくは、就職に向けて何らかの取組を始めたと考えられる。

他の項目においては、差がみられず、関連性もなかった。このことより、大学生になると、客観的な立場で物事を判断することができ、また年齢的に自己が確立されていることで、学年があがっても意識の変容は少ないと考えられる。

課 題

今回の調査では、長崎県教育センターが作成したアンケートをもとに、大学生版質問紙を作成した。この時点で、大学生の背景を多面的に考えて、質問紙を作成する必要があったと考える。

また、本研究では、一大学の教育学部教員養成課程の大学生という狭い範囲の調査を行っている。そのため、今回の調査結果が、一般的な大学生の社会性・規範意識であるということはいえないであろう。今後、他の学部・大学での調査をすることで、大学生一般の社会性・規範意識について知ることができると考える。

さらに、今回の研究では、所在が長崎県にある大学の大学生を対象に調査を行ったが、長崎に住んでいるということと長崎県出身であるということの関連については、調査していない。そのため、長崎県教育センターのデータと単純に比較することについては、問題を残す形となってしまったことも、今後の課題である。

<参考文献>

長崎県教育センター 2003 長崎県児童生徒の社会性・規範意識に関する調査研究報告

参考資料

社会性・規範意識に関するアンケート【大学生版】

- 1 あなたの性別はどちらですか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 男 ② 女
 - 2 あなたの学年について、あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 1年 ② 2年 ③ 3年 ④ 4年
 - 3 あなたは、どこから大学に通っていますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 自宅 ② 自宅以外
 - 4 朝から、家の人や友達などに「おはよう」のあいさつはしますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① ほとんど毎日する ② 時々する ③ あまりしない ④ まったくしない
 - 5 あなたは、ふだん何時頃に寝ますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 午後9時以前 ② 午後10時以前 ③ 午後11時以前 ④ 午前0時頃
⑤ 午前1時頃 ⑥ 午前1時以降 ⑦ きまっていない
 - 6 あなたは朝食を食べていますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 毎日食べる ② だいたい食べる ③ ほとんど食べない ④ 食べない
 - 7 あなたは、夕食を誰と食べますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 親・兄弟・恋人 ② 祖父母・親戚 ③ 自分一人 ④ 友人 ⑤ その他
 - 8 平日の講義終了後、時間を一番多く使うものは何ですか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 学習（レポートなども含む） ② アルバイト ③ テレビや漫画
④ 読書 ⑤ 音楽 ⑥ 友達と一緒に過ごす ⑦ ゲーム ⑧ サークル
⑨ 家の手伝いなど ⑩ ただぼんやりしている
 - 9 あなたは、あなたの家の人から、次のことについてどの程度注意されますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
(①よく注意する, ②時々注意する, ③あまり注意しない, ④全く注意しない)
- あ 勉強について
い 言葉遣いについて
う 服装・髪型・装飾品
え 礼儀作法について
お 片付け・整理整頓について
か 家の手伝いについて
き 帰宅時間
く 友達とのつきあい方について
け 異性との交際
こ 人に迷惑をかけないようにすること

さ ものを大切にすること
し 交通安全など自分のみを守ること

- 10 あなたは家の人にどんなことをしてほしいですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号で答えてください。
① よいことをした時は、ほめたり認めたりしてほしい
② 悪いことをしたときは、きちんとしかってほしい
③ 自分がこまっているとき相談にのってほしい
④ 進路や職業について相談相手になってほしい
⑤ 勉強のことはかり言わないでほしい
⑥ お手本となるような行動をしてほしい
⑦ 家族そろって楽しむ時間をつくってほしい
⑧ 言うことがころころ変わらないでほしい
⑨ 細かなところまで干渉しないでほしい
⑩ 他の兄弟姉妹と比べたり、不公平な扱いをしないでほしい
⑪ 自分の話をよく聞き、自分のことを理解してほしい
⑫ 特にない
- 11 保護者（親などの）の姿を見てすばらしいと思うところはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。
① 家族のために一生けんめい働いているところ
② 子どものことを大切にしてくれるところ
③ 家庭を明るい雰囲気にしてくれるところ
④ ボランティアや地域の活動などに打ちこんでいるところ
⑤ 趣味や教養を大切にしているところ
⑥ 近所の人たちと助け合って生活しているところ
⑦ 自分の信念に基づいて生きているところ
⑧ 特にない
- 12 あなたは、大学生活が楽しいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
① 楽しい ② だいたい楽しい ③ あまり楽しくない ④ 楽しくない
- 13 大学生活であなたが満足しているのはどういふ点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。
① 授業がよくわかる ② 生徒の自主性が尊重されている ③ 施設や設備がよい
④ 先生にめぐまれている ⑤ 友だちがいる ⑥ 部活動が楽しい
⑦ ゼミなどの雰囲気がいよい ⑧ 学校行事が楽しい ⑨ 特にない
- 14 あなたが大学生活で不満に思っているのは、どういふ点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。
① 授業の内容がよくわからない ② きまりがきびしい ③ 施設や設備が十分でない

- ④ 先生と気が合わない ⑤ 友だちができない ⑥ 部活動がきびしい
⑦ せみなどの雰囲気合わない ⑧ 嫌いな行事がある ⑨ いじめられる
⑩ 特にない
- 15 あなたにとって、よい先生とはどんな先生ですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号で答えてください。
- | | |
|----------------|----------------------|
| ① 明るく楽しい先生 | ② 悪いときはきびしくしかつてくれる先生 |
| ③ おこらない先生 | ④ 気持ちをわかってくれる先生 |
| ⑤ 授業がわかりやすい先生 | ⑥ 悩みの相談にのってくれる先生 |
| ⑦ 一緒に遊んでくれる先生 | ⑧ 分けへだてをしない先生 |
| ⑨ 約束を守る先生 | ⑩ よいことをしたときにほめてくれる先生 |
| ⑪ 熱心に指導してくれる先生 | |
- 16 高校生までの子どもたちが次のようなことをしていたら、あなたはどの思いますか。それぞれあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- (①)とても嫌な感じがする, ②かなり嫌な感じがする, ③あまり気にならない, ④全く気にならない)
- あ 髪を染めている
い ビームをあげている
う スボンやスカートを濡められたとおりにしていない。
え 校庭や廊下にゴミを捨てる
お 学校でカムやお菓子を食べる
か 学校をさぼる
き 掃除をさぼる
- 17 講義中に次のようなことをすることについて、一般的に、あなたはどの思いますか。それぞれあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- (①)とても悪い, ②かなり悪い, ③あまり悪くない, ④全く悪くない)
- あ ノートを出さない
い 注意されてもおしやべりをやめない
う 友だちの発言を笑ったりなじたりする
え 先生の注意に反抗する
お 先生の指示や質問を無視する
か 教室内を立ち歩く
き 無断でトイレに行く
く まんがや小説などを読む
け CDなどの音楽を聴く
- 18 あなたは友達がいいますか。あてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- | | | |
|----------|--------|-------|
| ① たくさんいる | ② 少しいる | ③ いない |
|----------|--------|-------|
- 19 18 で①または②と答えた人に聞きます。友だちはどのような人ですか。次の中から三つまで選んで、番号で答えてください。
- | | | | |
|--------|-----------|----------|---------|
| ① 気が合う | ② 考えが似ている | ③ たよりになる | ④ 尊敬できる |
|--------|-----------|----------|---------|

- ⑤ 趣味が同じ ⑥ おもしろい ⑦ 自分のまがいなことを教えられる
⑧ 自分にないところがある ⑨ 困ったとき相談にのってくれる
⑩ 18 で③と答えた人に聞きます。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- ① 友だちはほしいが、つきあいたい人がまわりにいない
② 友だちはほしいが、できない ③ 友だちはいらぬ
④ 友だちはほしいが、できない ⑤ 友だちはいらぬ
- 21 あなたは、誰かとメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号で答えてください。
- | | |
|------|------|
| ① ある | ② ない |
|------|------|
- 22 21 で「ある」と答えた人に聞きます。あなたは、見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号で答えてください。
- | | |
|------|------|
| ① ある | ② ない |
|------|------|
- 23 あなたは、今住んでいるところのどういうところが好きですか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで、番号で答えてください。
- | | |
|------------------------|----------------------------|
| ① 生活が便利である | ② 人の気持ちがあなたにかい |
| ③ のんびりしている | ④ 娯楽施設 (映画館や遊園地など) や遊び場がある |
| ⑤ 文化施設 (図書館や美術館など) がある | ⑥ スポーツ施設がある |
| ⑦ よい学校や仕事が多い | ⑧ 活気がある |
| ⑨ 自然にめぐまれている | ⑩ 自然にめぐまれている |
| ⑪ 安全に暮らせる | ⑫ 友達が近くに住んでいる |
| ⑬ 家賃が安い | ⑭ 特にない |
- 24 あなたは、社会人になった時、どこで暮らしたいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- | | | | | |
|-------------|------------|------|-------|------|
| ① 今住んでいる市町村 | ② 県内の他の市町村 | ③ 県外 | ④ 出身地 | ⑤ 外国 |
|-------------|------------|------|-------|------|
- 25 あなたは、これまでに次のような活動に参加したことがありますか。それぞれあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。(ただし、2 回以上参加した場合は、答えがふえてもかまいません。)
- | | |
|---------------------------|----------------|
| ① 自分から進んで参加した, | ② 他の人に誘われて参加した |
| ③ 学校の授業や行事などの地域活動として参加した, | ④ 参加したことはない |
- あ 老人ホームや病院など施設への訪問
い 障害がある人への支援や保育などの活動
う 道路、公園、海岸などの清掃
え 古紙やアルミ缶などのリサイクル運動
お 地域の伝統行事
か キャンプなどの自然生活体験
- 26 あなたはボランティア活動に興味がありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- | | | | |
|------|--------|----------|------------|
| ① ある | ② 少しある | ③ ほとんどない | ④ 考えたことがない |
|------|--------|----------|------------|
- 27 26 で①または②と答えた人に聞きます。それは、どのような気持ちからですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 地域や社会をよくしたいから ② 困っている人の助けをしたいから
 ③ 新しい技術や知識を身に付けたいから ④ 自分のやりたいことを発見したいから
 ⑤ いろいろな人と出会いたいから ⑥ 進学、就職などで有利になるから
 ⑦ 自由時間を有効に使いたいから ⑧ 周りの人がやっているから
 ⑨ 達成感や満足感をあげたいから
 28 あなたが、心から語せるのはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。
- ① 親 ② 兄弟姉妹 ③ 祖父母 ④ 親戚の人 ⑤ 友達
 ⑥ ゼミの先生 ⑦ ゼミ以外の大学の先生 ⑧ 大学の先生以外の先生
 ⑨ その他の人 ⑩ だれもない
- 29 人の生き方について、いろいろな考え方がありますが、あなたの考え方に最も近いものを、次の中から一つ選んで番号で答えてください。
- ① よい成績をあげて、高い地位や評価を得たい ② 経済的にゆたかになりたい
 ③ 家庭や家族を大事にして生きたい ④ 社会や他の人々のためにつくしたい
 ⑤ 自分の趣味を大切にして生きたい ⑥ その日その日を楽しく生きたい
 ⑦ 知識や教養を身につけ、精神的にゆたかな生活をおくりたい
 30 あなたは、どんなときに充実していると感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。
- ① 社会のために役立つことをしているとき ② 勉強に打ち込んでいるとき
 ③ スポーツや趣味に打ち込んでいるとき ④ 家族といるとき
 ⑤ 友だちや仲間といるとき ⑥ 親しい異性といるとき
 ⑦ 他人にわずらわされず、一人でいるとき ⑧ ゲームなどで遊んでいるとき
 ⑨ 充実していると感じることはない
 31 あなたたちが悪いことや迷惑をかけることをしたとき、まわりの大人は注意しますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。
- ① よく注意する ② 時々注意する ③ 見ても注意しない
 32 中学生や高校生が、次のようなことをしていたら、あなたはどの程度悪いことだと思いますか。次の中からあてはまるものを選んで、番号で答えてください。
- (①) とても悪い、 ② かなり悪い、 ③ あまり悪くない、 ④ 全く悪くない)
- あ 自分の部屋でたばこをすう
 い 自分の家で酒を飲む
 う アダルトビデオを見る
 え 車やバイクの無免許運転をする
 お 保護者に無断で外泊する
 か 人に暴力をふるう
 き 友だちにお金や品物を強要する
 く 万引きをする
 け 夜遅く外を出歩く

こ ナイフを持ち歩く
 さ 援助交際をする
 し 自転車の二人乗りをする
 す 他人の自転車や車を無断で使用する
 せ 他人の傘を無断で使う
 そ ジェームスの空き缶等を道路に放置する
 た 電車の通路や道路にべた張りする
 ち 電車やバスでお年寄りに席をゆずらない
 つ 薬物（シンナー等）を使用する

- 33 最近、家庭でのしつけがあまりされていないという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。

- ① そう思う
 ② どちらかといえばそう思う
 ③ どちらかといえばそう思わない
 ④ そう思わない
 ⑤ どちらともいえない

- 34 33 で①、または、②どちらかといえばそう思うと答えた方にかがいます。家庭でのしつけがあまりされていない原因はどこにあると思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号で答えてください。

- ① 学校まかせの親が増えているから
 ② しつけに意欲を持たない親が増えているから
 ③ 祖父母が家庭でのしつけに携わらなくなっているから
 ④ 親自身がマナーやエチケットを十分身につけていないから
 ⑤ 家庭でのしつけに、隣近所の協力が減っているから
 ⑥ 親子が対等であるという風潮が広まっているから
 ⑦ 親が多忙で、しつけに手がまわらないから
 ⑧ わからない

- 35 あなたは、普段、地域にいる周囲の人に対して、どのように接していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号で答えてください。

- ① 道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする
 ② 悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている
 ③ 地域の人と一緒にになって活動をしている
 ④ 言葉遣いや態度が悪かったら注意している
 ⑤ 文化的活動やスポーツの指導などをしている。
 ⑥ 困っているときや悩んでいるときに相談に乗っている
 ⑦ 子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている
 ⑧ 地域の子どもたちとのかかわりはほとんどない

36 地域社会について、何か問題だと思える点がありますか。次の中から三つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 隣近所に無関心な人が増えた
- ② 地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた
- ③ 町内会などの活動が少なくなった
- ④ よその家の子どもを知らなくなった
- ⑤ 子どもが地域の人と接する機会が少なくなった
- ⑥ 地域で子どもが遊んだり、スポーツをしたりする機会が少なくなった
- ⑦ 地域で自然に触れる機会が少なくなった
- ⑧ 特になし

37 現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、憧れている面をあげるとすればどのようなことだと思いますか。次の中から三つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 情報機器などへの対応が早い
- ② 自由へのびのびと振るまえる
- ③ 現実的である
- ④ 個性や独自性を大切にしている
- ⑤ 自分の考えをはっきり言える
- ⑥ 国際感覚が豊かである
- ⑦ 感性が豊かである
- ⑧ 実行力や行動力がある
- ⑨ 社交性や協調性がある
- ⑩ ボランティア活動に積極的に参加する
- ⑪ ねばり強く物事をやり抜く
- ⑫ 思いやりに富む
- ⑬ 特になし

38 また、憂慮すべき面をあげるとすればどのようなことだと思いますか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 自己中心的な考えや行動が多い
- ② 社会的なルールを守らない
- ③ 他人を思いやる心が乏しい
- ④ 社会的・公共的なことへの関心が低い
- ⑤ 自分の感情や欲望をうまくコントロールができない
- ⑥ ぜいたくを好み、ものを大切にしない
- ⑦ 精神的なたくましさがない
- ⑧ 命の大切さについての認識が薄い
- ⑨ 主体性がなく、友だちなど周囲の考えに安易に同調する
- ⑩ 人と人のふれあいを避け、自分の世界に閉じこもる
- ⑪ 将来に対する生きがいや目標がない
- ⑫ 意欲・チャレンジ精神が乏しく、投げやりな態度である
- ⑬ 忍耐力がない、我慢ができない
- ⑭ 自分の気持ちを他人にうまく伝えられない
- ⑮ 特になし

39 あなたは、21世紀をになう青少年が身につけるべき資質は何だと思いますか。次の中から特に大切と思うものを三つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 礼儀正しさ
- ② 自立性
- ③ 自制心
- ④ 責任感
- ⑤ 正義感
- ⑥ 忍耐力
- ⑦ 創意工夫
- ⑧ 寛容さ
- ⑨ 協調性
- ⑩ 積極性
- ⑪ 競争心
- ⑫ 好奇心
- ⑬ 信仰心
- ⑭ 思いやり
- ⑮ 公共性
- ⑯ 人権意識
- ⑰ 指導力
- ⑱ 公正さ
- ⑲ 国際感覚
- ⑳ 向上心

21 ボランティア精神 22 心身の健康 23 決断力 24 勤勉さ 25 わからぬ
40 青少年の望ましい成長・発達を支えていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から三つまで選び、番号で答えてください。

- ① 地域での青少年の居場所づくり
- ② 地域における青少年リーダーの育成
- ③ ボランティア活動の推進
- ④ 発達段階に応じた性教育
- ⑤ 青少年に有害な図書類の規制
- ⑥ 薬物乱用防止対策に関わる啓発活動の推進
- ⑦ 家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発
- ⑧ 学校での道徳教育の充実
- ⑨ 青少年の悩みについての相談窓口の充実
- ⑩ 青少年の相互交流・国際交流の促進
- ⑪ 非行少年の補導・保護の充実
- ⑫ わからない

情報機器（携帯電話、パソコン等）・情報サービス（インターネット等）は、日常生活の中にも急速に普及しつつあります。学校においてもコンピュータの活用を必修とすることが決まるなど、今後青少年にも大きな影響を与えると考えられています。以下情報機器、情報サービスについて答えてください。

41 情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にプラスとなることは何だと思いますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで、番号で答えてください。

- ① ささまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる
- ② 交際や行動範囲が拡大する
- ③ 手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる
- ④ 新しい若者文化が生まれる
- ⑤ 国を越えたコミュニケーションにより国際理解が深まる
- ⑥ 特になし
- ⑦ わからない

42 情報機器・情報サービスの普及・使用により青少年にマイナスとなることは何だと思いますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで、番号で答えてください。

- ① 情報が多すぎて混乱する
- ② 人と直接ふれあう機会が少なくなり、対面でのコミュニケーションが下手になる
- ③ 有害な情報が簡単に入手できるようになり、非行が増える
- ④ 悪用されたり誤って使われたりして被害を受ける
- ⑤ ちよつとした情報を得るにもお金がかかる
- ⑥ 機械に弱い人が取り残される
- ⑦ 特になし
- ⑧ わからない